

## 「静脈血栓塞栓症」にならないために

### 静脈血栓塞栓症とは？

「静脈血栓塞栓症」とは、静脈に血のかたまり（血栓）ができ、血管がつまってしまう病気です。よく「エコノミー症候群」と言われています。

手術による傷や入院中のベッド生活（長期臥床）などによっておこりやすくなることがわかっており、また、癌・高齢・肥満・妊娠なども発症のリスクになります。

下肢（ふくらはぎや太もも）の血管に起きた場合は（深部静脈血栓症）といわれ 下肢の腫れ・痛み・浮腫などがおきることがあります。肺の血管に起きる場合は（肺血栓塞栓症）といわれ重篤な症状を起こすことがあります。

「肺血栓塞栓症」は手術後、初めてベッドから立ち上がって歩いた時や、トイレの時になどに起こりやすいと言われています。

長い間横になっていた状態から急に起き上がって歩く事で足の血のめぐりが良くなり、血栓が肺へ移動しやすくなる為です。

術後初めて立ち上がる時は、特に注意が必要なため、看護師やスタッフに声をかけてください。

#### 肺血栓塞栓症のおもな症状



### 当院での術後静脈血栓症に対する予防の取り組み

静脈血栓塞栓症は、診断が難しい（見つけ難い）病気であり、また肺血栓塞栓症を起こした場合、命にかかわることも少なくありません。

そのため、リスクをできるだけ減らすよう「予防」が重要となります。

当院ではこのリスクを減らすため「**理学的予防法**」「**早期離床と積極的な運動**」「**薬物的予防法**」を積極的に行っております。

### 理学的予防法

- ・ 下肢を適度に圧迫して血流を増加させる「**弾性ストッキング**」や、下肢にカフを巻き、ポンプを使って断続的に圧迫する「**間欠的空気圧迫法 (IPC)**」などを、術後だけでなく、必要に応じて、術前・術中においても行っております。



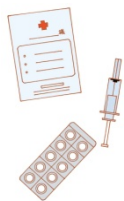
### 早期離床と積極的な運動

- ・ 血流を改善させるために術後、ベッド上での「**足の運動**」「**足のマッサージ**」を行っていただきます。安静時期を過ぎれば、できるだけ早く離床していただいております。



### 薬物的予防法（抗凝固療法）

- ・ 血が固まりすぎるのを防ぐために行われます。理学的予防法と併用する事でより効果を高められます。 **患者様の状態** **手術の大きさ等**により、**血栓症予防ガイドライン**に基づいた適応の方に **薬剤**を使用しております。薬物的予防法は、近年、術後血栓症に対する有効性が認められ、広まりつつあります。



予防や早期発見が大事な病気であり入院中 気になることがあれば ご質問や体調の変化等についてすぐにお知らせください。また予防治療につきご協力お願いします。